



本市における行政機能のあり方について

萩野 幸弘 議員
(緑風会)

問

先般発生した後期高齢者医療保険料の誤徴収事件は、多くの市民に迷惑をかけた。以前から市職員による公金の横領や、不適切管理など不祥事が相次いでおり、今回の事件も事後処理にスピード感が感じられず、責任の所在も曖昧だ。今一度、部署別の再発防止策の整備及び再点検をするべきでは。

答

当市における不祥事は、残念ながら過去数回発生しており、その都度原因を究明し、再発防止策を講じてきた。しかし、今回の後期高齢者医療保険料の誤徴収事件は、チェック体制の不備から発生しており、その対応においても過去の経験が活かされなかつたことを反省せざるを得ない。不祥事に共通する原因は、職員の意識・モラルの低下、職場環境・組織の弛緩、チェック機能の不全等が考えられる。再発を防止するには、これまで以上に職員一人一人の法令遵守意識

の高揚と危機管理意識の徹底、全体の奉仕者であるということの再認識、職員間のコミュニケーションの強化を図っていくことが重要である。庁舎が分散し、職員が常日頃顔を合わせる事が少なくなつたが、職場の潤滑油であるコミュニケーションを強く意識してとるようにし、職場環境の充実に図り、職員のモラルの向上、チェック機能の強化など再発防止に全力を挙げ、住民から信頼されるサービスの向上に努めていく。

問

市民サービスの充実や地域コミュニティの活性化等の観点から、今般各地区に配置された地域活動専門員の活用など、地区センター機能のさらなる充実化を図り、更に達會部、鱒沢にも配置すべきでは。

答

地区センターは、市民センター構想における地域コミュニティや社会教育活動の

拠点として40年もの間、各町住民に活用されてきた歴史があり、現在も多くの地域住民の利用を頂いている。また、今回の東日本大震災を受け、地域住民の避難場所や地域防災の拠点施設として

有効に機能したとの認識を新たにしたい。今後は地域活動専門員の活動が地域にどのような効果をもたらすかを検証しながら、宮守2地区の配置を含め議論を重ねていきたい。



綾織地区センターでの料理教室の様子